



# エイズ・ワクチン開発協会 ニュース・レター

第0001号 2006年12月発行

特殊非営利活動法人

エイズ・ワクチン開発

協会

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場一丁目28番3号-801

特別非営利活動法人

バイオメディカルサイエンス研究

会内

TEL: 03-3200-6752

FAX: 03-3200-5206

Email: secretariat@avda.jp

URL: http://www.avda.jp

## トピックス

### エイズワクチン開発への挑戦にご協力ください

1983年にエイズの原因ウイルスであるHIVが発見されてから既に20数年が過ぎた現在もまだ、有効なエイズ予防ワクチンは開発されておらず、世界のHIV感染者数は更に増加し続けています。

このような状況下で、なんとかして“日本発のエイズ予防ワクチン”を世界のために実現しようと立ち上がったのがNPO法人AVDAです (<http://www.avda.jp>)。AVDAは、日本の研究者たちがこれまでに開発してきたエイズ予防ワクチン候補の中で、現在最も臨床試験に近い段階にまで進んでいるワクチンを対象にして、その製剤化と臨床試験への移行を促進する道を拓こうと努力しています。AVDAが公認のNPO法人として発足した2004年は、米国シーアイランドにおいて開催されたG8サミットが「世界HIVワクチン事業」(Global HIV Vaccine Enterprise)を採択した年です。AVDAの活動を発展させるためには国際協力によるグローバルネットワークへの参加が不可欠であり、私達はこの事業に参画すべく努力していますが、残念ながらエイズワクチンの臨床試験を促進する政府の支援や民間企業の貢献を期待するのは大変難しく、AVDAの活動を維持発展させてゆく資金不足に直面しています。

エイズワクチン実現の道は遠く、AVDAの活動はまだ始まったばかりですが、どうか皆さんのご協力をお願いします。ニュースレター創刊に当たり、AVDAの活動を支援してくださる一人でも多くの方々の入会を期待しています。(山崎修道)

#### 第0001号の目次

トピックス	.....	1
創刊号にあたって		
国際エイズ		
ADVA部会の活動報告	.....	2
企画運営部会・研究開発部会		
臨床試験準備部会・広報/宣伝部会		
アメリカ便り (その1)	.....	2
編集後記	.....	2
WHO会議の案内	.....	3
理事会議事録	.....	3
募金のお願い・事務局便り	.....	3
AVDAへの入会のお願い	.....	4

### 国連エイズ特別総会ハイレベル・レビュー会議の政治宣言

HIV/エイズを議題とする国連総会が、2006年5月31日から3日間、ニューヨークの国連本部で開かれ、5年前のエイズ特別総会「地球規模の危機 - 地球規模の行動」で採択された「コミットメント宣言」の実施状況を検証し、今後5年間の世界のエイズ対策の指針として「政治宣言」が採択されました。この宣言では、2010年までに予防、治療、ケア、支援を必要とするすべての人に提供することが誓約されるとともに、「ワクチン開発」の重要性が3項目にわたって強調されています。(樽井正義)

### 治療とともに予防の強化を

#### 第16回国際エイズ会議報告

4,500の発表やブース展示に26,000名が参加するという巨大な会議(IAC)は、8月13日から18日までトロント(カナダ)で開催された。会議のスローガンは「約束を果たすとき(Time to Deliver)」。約束とは、会議の2ヶ月前に国連で採択された「政治宣言」、わけても予防、治療、ケア、支援を2010年までに誰もが利用可能にすること(Universal Access)を指す。治療薬ARVの途上国への普及はこの3年で5倍増の150万人となったが、まだ必要としている人の4分の1にすぎない。その拡大とともに、予防の強化が会議の主要な課題となった。

予防では、コンドーム、ハームリダクション、母子感染予防など既存の方法の普及に加えて、新たな予防法の開発に注目が集まった。なかでもマイクロビサイド(女性の膣に用いる殺ウイルス剤)は、30の候補薬から14がII相試験に進んでいる。そのうち5つについて効果を確認する試験が約3万人の女性の協力を得て行われており、最初の成果は2年後に出される。ワクチンでは2つの候補薬が効果試験に進み、30余についてI・II相試験が行われている。この会議における日本からの基礎研究7報告のうち3つはワクチン関係だったが、候補薬が速やかに治験に進むことが期待される。(樽井正義)

# AVDA部会の活動報告

## 企画運営部会

### 調査協力事業

今年7月外務省による「先進各国の国際医療協力の実態調査」の入札を早稲田総研、AVDA、IAVIで受注。AVDAから白石副理事長、川初理事、IAVIの渡辺氏、早稲田総研の藤井氏の4名が調査を担当し、有識者による研究会メンバーとしてAVDA山崎理事長、山本直樹副理事長、その他が参加する。調査の中心課題は、先進各国によるエイズワクチン研究開発支援の実態調査で、米、加、仏、英、独、伊、蘭等が調査対象となる。調査は今予算年度内に完了する予定。（白石正明）

## 研究開発部会

### タイ政府と交渉開始

我々が開発中のエイズ感染予防ワクチンは、結核のワクチンであるBCGと、天然痘のワクチンであるワクシニアウイルスの弱毒株DIsの2種のベクターから成っています。それぞれに遺伝子組換えでHIV-1のgag遺伝子を組み込み、BCGで初回免疫し、ワクシニアDIsで追加免疫すると、IV-1に対するキラーT細胞が飛躍的に増強されます。前臨床試験で安全性も確認され、タイでの臨床試験実現に向けて、タイ政府との話し合いが始まりました。（松尾和浩）

## 臨床試験準備部会

### タイ臨床試験グループへプロポーザル提出

本年6月9日、タイMinistry of Public HealthのDirector General、Dr. Paijit Warachitを訪問しました。目的は、BCG/DIs prime-boost HIV vaccineの臨床施行について、今後どのように進めるかを相談することです。Dr. Paijitは、まだ研究費は申請していないが、日本からのプロポーザルを受けてタイ国に申請を行いたい旨を述べられました。このため、帰国後に急遽プロポーザルを作成し、タイ側に送り、その反応を待っている段階です。（山本直樹）

## 広報・宣伝部会

### エイズワクチンのキャンペーン

広告会社とタイアップしてエイズワクチンのキャンペーンを行なえないかの検討を行なっています。（大森哲實）

## アメリカ便り（その1）

国立感染症研究所の本田三男エイズワクチン研究開発グループ長らは、7月よりメリーランド州ベセスダにあるアメリカ国立衛生研究所（NIH）ワクチン研究センター（VRC）のDr. Gary Nabelのの研究グループと新しいエイズワクチン開発の共同研究を進めている。VRCは、赤レンガ造りの建物が多いNIHの中では珍しい、モダンなガラス張りの外観が目目を引く（写真）。このセンターはNabel所長の下、ウイルス学、免疫学、構造生物学、臨床部門などの専門家が一つのビルに集結し、エイズやインフルエンザなどのワクチン開発研究の基礎から臨床までを一貫して遂行できる体制がとられている。我々が開発してきた組み換えBCGワクチンと、彼らが推進している組み換えアデノウイルスワクチンを組み合わせたプライムブーストワクチンの評価が当面の目標であり、これらのベクターにHIV-1env遺伝子を組み込んだ中和抗体指向型ワクチンの動物実験が進行中である。我々は既に、BCG/Disプライムブーストワクチンにより顕著なGag特異的細胞性免疫を誘導できることを明らかにしていたが今回の共同研究により広範なウイルス株を中和できる抗体の産生にも成功すれば、極めて有効なワクチン効果が期待できる。（松尾和浩）



## 編集後記

ADVAが設立して3年目にしてやっとニューズレターを発刊することができて、うれしい限りです。これからは定期的に発刊していきます。（大森哲實）

# アジアにおけるHIVワクチン開発に関するWHO会議の案内

AVDAは、2006年10月30日～11月1日に北海道大学（札幌市）において開催される、HIVワクチン開発に関するWHOの国際会議を後援します。本会議は、1996年に国立感染症研究所で開催されてから丁度10年目の節目の重要な会議です。1996年の会議は、当時の国立感染症研究所の所長（現在AVDA理事長）山崎修道先生の多大なご尽力に寄り開催されました。さて、今回の会議の主旨はアジアにおける、1) HIVワクチン開発の現状把握、2) HIVワクチン開発のための基盤整備、3) HIVワクチン開発の促進、4) HIVワクチン開発のためのネットワーク強化 です。

エイズの原因であるHIVが発見されて20年が経過しましたが、世界中の科学者が精魂込めて研究に打ち込んでいるにもかかわらず、それに有効なワクチンは未だ開発されていません。エイズ治療薬の開発に比べて遅々として進んでいないのが現状です。インドやヴェトナム、カンボジアなどのアジア諸国においてエイズの流行が急速に拡大しつつある現在、有効なワクチンの開発が渴望されています。その意味でも、今回の会議がアジアの国で開催される意義は大きいものがあります。

今回の会議では、アジアを含む世界のワクチン開発の現状を分析するとともに、今後の研究開発を促進するための基盤整備と関連機関・担当者のネットワークの確立を主な目的としています。会議はWHO、UNAIDS、IAVAおよび北大の共催に寄り開催します。AVDAからは理事長を初め、副理事長らの役員が数人参加する予定です。会議には、アジア諸国（ヴェトナム、カンボジア、ラオス、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、パプアニューギニア、タイ、オーストラリア、中国、韓国、日本など）に加え、米国、フランスなど10数カ国の著名な科学者、団体が参加します。会議の成果はWHOの報告書の他に、国際雑誌にも掲載する予定です。追って、ご案内申し上げます。今回の会議の詳細は、北海道大学大学院医学研究科国際保健医学分野 <http://ghe.med.hokudai.ac.jp/>にお問い合わせください。（玉城英彦）



## 理事会議事録

第8回理事会が下記の通り開催されました。

日時 : 2006年6月26日（月）16:40～17:00  
場所 : 国立感染症研究所 セミナー室  
討議内容 :

### 1. 事務局の移転について :

今までの事務局所在地であった、国際開発センター（門前仲町）から、バイオメディカルサイエンス研究会（高田馬場）に移転することに決定した。

### 2. 新事務局長について :

これまでの事務局長である竹内正興氏の辞任に伴い、白石正明副理事長が事務局長を兼任することになった。

### 3. アメリカNIHとの研究協力について :

2006年9月から本多三男会員がアメリカのNIHエイズ研究センターに移って、BCGベクターHIVワクチンの改良開発研究を行なうことになった。（本多氏の理事退任承認）



## 事務局便り

国際開発センターの移転に伴い、当協会創立以来の登録事務所であったIDCJから、新たに高田馬場のバイオメディカルサイエンス研究会(BMSA)の事務所内に移転登記し、事務局の担当が斉藤早久良へ引き継がれました。これまで事務所と事務局を預かって頂いたIDCJと、事務局担当をして頂いた堤華子さんに感謝し、御礼申し上げます。

この機会に、「会員制度のご案内」の文面を改訂し、本創刊号の最終ページに掲載しましたので、ご一読いただき、何かコメントがございましたら山崎理事長 ([yamazaki.s@avda.jp](mailto:yamazaki.s@avda.jp)) までご連絡下さい。なお、白石新事務局長より、事務局専用のパソコン(SONY VIO)を寄付していただきました。事務局 : 斉藤早久良 ([secretariat@avda.jp](mailto:secretariat@avda.jp))

## 募金への協力のお願い

先進国の中で日本だけが、HIV感染者の数が増え続け、特に若い世代を中心に増えているという状況にありながら、日本社会のエイズへの関心の薄れが懸念されます。世界のエイズ拡大を阻止するために、日本発のエイズ予防ワクチンの実現を目指すAVDAの活動は皆様からの寄付金によって支えられます。金額はいくらでも構いませんので、よろしくお願ひ致します。（問い合わせはAVDA事務局へ）



# エイズワクチン開発協会 (AVDA) への入会のお願い

理事長：山崎修道

## エイズワクチン開発の必要性

現在、世界のHIV感染者は4,000万人以上にのぼり年間500万人（2005年）が新たに感染しています。一方で、治療薬のめざましい進歩により、エイズは死の病から一生付き合っていく病気が変わりつつあります。しかし、治療薬の値段は高く、日本では一年間で200万円以上もの治療費がかかります。これは世界のHIV感染者の大半を占める途上国の人々にとっては、とうてい手の届かない高価なものです。こうした国の人々でも入手可能な有効なエイズ予防ワクチンの開発は、世界のエイズ拡大阻止には不可欠な手段です。

## AVDAとは

エイズワクチン開発協会 (AVDA) は、2004年2月に東京都よりNPO（特定非営利活動法人）の認証を受けました。本協会の目的は、エイズの拡大を防ぐために日本発のエイズ予防ワクチンの開発を促進し、その生産と普及を計ることにあります。そのためには、予防ワクチンの果たしうる科学的、経済的人道的役割について正しいビジョンをもち、有望なワクチン候補をターゲットにして、一日も早く臨床試験に移行させる、実用化のための努力が必要です。AVDAはこのような認識のもと、エイズ予防ワクチンの実現という極めて困難な事業に挑戦しようと集まった、多分野の有志によって結成された組織であり、100%エイズワクチン開発推進を目指して活動する日本で唯一のNPOです。

## AVDAの活動をご支援下さい

AVDAが対象とする日本発のエイズ予防ワクチン候補は、高い安全性と有効性が期待され、また生産価格も比較的安いという利点のある画期的なものであり、世界のHIV感染の広がりを抑えるうえで不可欠なものです。いま、一日も早くエイズワクチンの有効性を証明して、広く世界に普及させることが重要です。しかしながら、新しいワクチンの製造と臨床試験には多額の資金を必要とし、各種のリスクを伴います。しかも、エイズワクチンは主としてエイズ流行国である開発途上国で使われるため、たとえ成功しても多大な利益につながることはほとんど考えられません。そのため、自己資金を投じてまでエイズワクチンを開発しようとする企業は見当たりません。この問題を打開して前進するためには、政府の支援はもとより、民間団体や個人からの支援に期待する他ありません。

## いま会員を募っております

AVDAのエイズワクチン開発促進事業は、世界のエイズ対策に日本が貢献できる大きなチャンスです皆様のご支援を心よりお願い申し上げます

### [会員区分]

■**正会員**:AVDAの目的に賛同し、個人または団体としてAVDAの活動に参加します。

■**賛助会員**:AVDAの目的に賛同し、個人または団体としてAVDAの事業を支援します。

### [会員の年会費]

■ <b>正会員</b> :年会費	個人	10,000円/口
	団体	100,000円/口
■ <b>賛助会員</b> :年会費	個人	5,000円/口
	団体	50,000円/口

### [入会の手続き]

所定の申込書に必要事項を記入の上、協会事務局にご郵送/Faxをお願いいたします。入会手続き完了後、事務局よりその年度分の会費請求書を送らせていただきます。

### [会費納入先]

■**銀行振込**:  
特定非営利活動法人エイズワクチン開発協会  
東京三菱銀行 深川支店 普通預金 1717740

■**郵便振替**:  
特定非営利活動法人エイズワクチン開発協会  
00170-3-684990

### [お問い合わせ先]

特定非営利活動法人エイズワクチン開発協会  
事務局 斉藤早久良

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場1-28-3 工新ビル801号  
バイオメデイカルサイエンス研究会内  
TEL: 03-3200-6752  
FAX: 03-3200-5206  
Email:secretariat@avda.jp  
URL: http://www.avda.jp